

2016年度 情報基盤本部 自己点検・評価報告書

基準 1 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関等の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的（建学の精神、教育理念、使命）を踏まえて、当該付属機関・委員会の理念・目的を設定していること。 【約500字】	・情報基盤本部は法人組織に位置づけられ、すべての構成員に対して、ネットワーク等の基盤的情報サービスを提供し、次世代情報サービスの調査を通じて、本学及び社会の発展に寄与することを目的としている。その他、学内の情報組織は、教学組織である教育の情報化推進本部、ユビキタスカレッジ運営委員会があり、当本部を含む3つの組織で目的別に分かれて、それぞれの担当部署により機能的に運営されている。					
(2) 付属機関等の理念・目的が、教職員及び学生に周知され社会に公表しているか						
a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること 【約150字】	・情報基盤本部規程の第1条、第2条で目的を明記しており、大学ウェブサイトの情報基盤本部のサイトを立ち上げ、該当の条項を公開している。 ・学生に対しては、本学構成員であれば自由にインターネット上の情報にアクセス出来る環境にあることを、MIND利用者講習会で周知している。2016年度と同講習会受講者は、概ね9割を超えている。	・2016年度のネットワーク利用違反は、2件に留まった。	・ネットワーク以外の情報サービスについて、学内情報関連組織で役割分担の周知方法が不十分なため、利用者が問合せの際に混乱することがある。 ・教職員への周知が不十分である。	・インターネットにかかわる技術は変化が激しく、講習会の内容を定期的に見直す。	・教育の情報化推進本部と情報基盤本部間（ならびに双方の事務担当部署間）の日常的な情報交換・意見交換を活発に行うことにより、バランスの取れた計画の策定・推進を行う。 ・教職員に対しても周知を図る。	・教育の情報化推進本部との連携を強め、情報基盤本部と教育の情報化推進本部を一貫性のある組織として運営ができる形に再編する。
(3) 付属機関等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【約300字】	・理念・目的の検証プロセスについては、情報基盤本部長及び副本部長で構成する会議体（執行部会）において検証し、情報基盤会議で承認を行っている。 ・執行部会には、3つの情報組織（情報基盤本部、教育の情報化推進本部、ユビキタスカレッジ運営委員会）に所属する教職員が出席している。	・執行部会において、情報の共有や、大方針の策定を行うことにより、情報の一組織に偏りの出ない方針の策定が行われている。	・情報基盤本部に所属していない組織における情報基盤の利用について、意見を収集する。		・学内情報関連機関・組織との連携を強化するため、情報基盤本部の体制を見直す。	・図書館等関連組織と情報メディア組織との機能的な融合の実現に向け、体制を整える。

2016年度 情報基盤本部 自己点検・評価報告書

基準 2 教育研究組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画	
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述
(1) 付属機関等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか					
a ①教育研究組織の設置状況は理念・目的に照らし、適切であるか。学術の進展や社会の要請と教育との適合性について配慮したものであるか。 ●教育研究組織は、当該大学の理念・目的を実現するためにふさわしいものであるか。 【約300字】	<ul style="list-style-type: none"> ・情報基盤本部は、情報環境の著しい革新に迅速に対応し、本学のすべての構成員に基盤的情報サービスを提供するとともに、次世代の情報基盤の整備に取り組み、本学の経営及び教育・研究ならびに社会の発展に寄与するために、教員と技術関連職員が密接に連携する組織として法人の下に設置されている。本部長、副本部長、情報メディア部長、システム企画事務長、各キャンパスメディア支援事務長からなる執行部会において、年度ごとに情報基盤整備上の課題を洗い出し、それに迅速かつ的確に対応するためのワーキンググループ、プロジェクトグループを構成して具体的対応策を立案・実行している。大学の情報システムに対する十分な知識と経験を持った技術スタッフが情報基盤本部の事務局運営にあたっている。 ・本部及びプロジェクトを推進するために、情報メディア部システム企画事務室が、調達～導入推進～検証～運用管理～教育研修という一連の業務遂行を担う。 ・本部の課題を解決する目的で編成するワーキンググループ、プロジェクトグループが、適宜組織されている。 ・現状での情報基盤本部の組織編成のあり方は、情報基盤本部の規程の範囲内において、その理念・目的に適合しているといえる。 ・活動体制としては、(1)ネットワーク推進部、(2)基盤サービス推進部の2つの推進部を常設し、加えて、学内の要望及び大学を取り巻く社会状況の変化に柔軟に対応できるよう、規定を改正して本部長の任命により必要に応じて事案ごとにワーキンググループを設置できることとした。 ・情報基盤及び基盤的情報サービスの管理・運用組織は、既存システムのメンテナンスならびにセキュアな運用を実現し、徐々に積み重ねながら情報基盤の拡充を行っている。 				
(2) 付属機関等の教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか					
a ●教育研究組織の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にしているか。 ●その検証プロセスを適切に機能させて、改善に結びつけているか。 【約500字】	<ul style="list-style-type: none"> ・執行部会において本部の適切性を検証し、情報基盤会議へ報告を行う。 ・2013年度に外部評価を実施し、継続的に課題事項への対応を行っている。 ・情報セキュリティ委員会のもとに設置した、情報セキュリティ対策実施作業部会において、セキュリティインシデント発生時に機動的に対処できる体制を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ対策実施作業部会では、各キャンパスに受付窓口を開設し、代表メールアドレスを公開している。インシデント発生時には被害を最小限に抑えるために迅速に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価報告で指摘された18項目の課題解決に向けた取り組みにおいて、未対応のものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、将来的な技術革新や社会的要請への柔軟な対応を行うWG等を設置する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価報告の指摘事項への取り組みを継続する。 ・全学に対するシステム化戦略を検討・決定する組織の設置を推進する。

2016年度 情報基盤本部 自己点検・評価報告書

基準 7 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 当年度・次年度対応 F列にあれば記述 中長期的対応 F列にあれば記述	
(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか						
a ●学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針を、当該大学の理念、目的を踏まえて、定めているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報基盤本部規程に則り、長期・中期計画書において、セキュリティの高度化、ネットワークの高度化、事務システムに関する意見集約と改善方針の策定、学内情報及びシステムのバックアップ体制、その他の継続事項という観点から情報基盤整備の計画を明確化し、単年度計画に基づき遂行している。 ・学内情報システムのセキュリティ確保のため、情報セキュリティポリシーを定めている。 ・ソフトウェア利用の適正化のため、学校法人明治大学ソフトウェア管理規程を定めている。 					
(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか						
a ●学生の学修、教員の教育研究の環境整備に関わる方針に沿って、施設・設備、機器・備品を整備し、管理体制を備えているか。 ●教育研究等環境の適切性を検証するにあたり、責任主体、組織、権限、手続きを明確にし、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の校舎、施設の整備計画に合わせ、情報基盤本部の長期・中期計画に則り、以下の観点から情報環境の整備を行っている。また、これらの整備及び運営のため、専門的な知識を有する専任職員を配置している。 <p>① セキュリティの高度化に関わること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティインシデント発生時の迅速な対応のため、情報セキュリティ委員会のもとに、ネットワーク推進部会員を構成員とする「情報セキュリティ対策実施作業部会」を設置し、活動を開始した。 <p>② ネットワークの高度化に関わること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商用ネットワーク回線を500Mbpsから1Gbpsに増強した。 ・2008年度に導入したMIND機器について、老朽化及びユーザーニーズへ対応するため、全面的な更新計画に着手した。 <p>③ 事務システムの改善に関わること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育振興系システムの再構築を行った。 ・教学系システムを改修し、100分授業に対応した。 	<p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ対策実施作業部会を設置した。これに伴い、インシデント発生時の対応フロー策定及び、問合せ窓口の開設を行い、セキュリティの脅威が発生した際の対応を明確化・実効化した。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回線増強により、通信量の逼迫を解消した。 ・MIND設計監理業者を選定し、設計を開始した。 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育振興系システムの再構築により、年間保守費用が約1,500万削減された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク機器が導入から8年を迎え、老朽化している。 ・2019年に計画する教学系システムの改修計画に先立ち、現行システムの仕様を整備する必要がある。 ・業務用ポータル(MICS)の保守契約が終了する。 ・事務用サーバが老朽化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・MIND設計監理業者の設計に基づき、機器を調達する。 ・システム担当職員を、学外専門機関が実施するセキュリティ研修等へ継続的に参加させるなど、人材育成を進める。 ・ネットワークを更新し、高速化と高帯域化を実現する。 ・事務システムの契約を精査し、コストバランスの均衡化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの老朽化に対応するため、MINDの機器更新を行う。 ・2019年に計画する教学系システムの改修準備のため、リバーエンジニアリングにより現行システムの仕様書を整備する。 ・業務用ポータル(MICS)の契約終了に伴い、専任職員及び非専任職員のメール・スケジュール機能を更新する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化するサービスの利用へ対応するため、ネットワーク帯域の拡大、無線LANアクセスポイントの増設ならびに新認証基盤への順次サービス乗り入れを推進する。 ・技術職員体制を強化する。

2016年度 情報基盤本部 自己点検・評価報告書

基準 7 教育研究等環境

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
					当年度・次年度対応 F列にあれば記述	中長期的対応 F列にあれば記述
	<p>④ 学内情報及びシステムのバックアップ体制に関わること ※業務データにおける危機管理体制のとおり。</p> <p>⑤ その他継続事項等 ・コストダウン、資源活用の観点から、本学既存環境において生田仮想OS及び認証サーバを運用した。 ・MATLABをTAHライセンス（包括）契約とすることにより、コストを削減した。 ・情報基盤の強化、コンプライアンス対策、サービス向上のためMicrosoftライセンスのEES契約を継続した。 ・評価情報事務室と連携し、IRシステム構築を推進した。 ・情報漏えい等の事故発生時の状況や原因調査、対処方法検討のため、事務用PCの操作ログを収集・蓄積するソフトウェアを運用した。 ・新しい認証システムとして、より安全性の高い統合認証基盤を稼働させた。これにより、クラウド等の学外サービスからも本学の認証システムが利用可能となった。 ・データセンターのネットワーク機器及び設定を見直し、新認証システムを無停止で稼働させた。</p>	<p>⑤について ・EES契約の継続により、2016年度は学生向けに約2,400ライセンス、教職員向けに約2,900ライセンスの新規配付を行った。</p> <p>・統合認証基盤で提供する、従来より安全なシングルサインオン認証システムへ、WEB履修及び教育振興系システムが連携した。</p>	<p>・事務用PCの老朽化及び数量不足が指摘されている。</p> <p>・財務システムが老朽化している。</p> <p>・今後さらに高度化するシステムセキュリティに対応する必要がある。</p>	<p>「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目</p>	<p>「改善を要する点」に対する発展計画</p> <p>当年度・次年度対応 F列にあれば記述</p> <p>中長期的対応 F列にあれば記述</p>	<p>・システム老朽化に伴い、事務用サーバの更新を行う。</p> <p>・事務用PCの老朽化及び数量不足に対応するため、台数を追加し機器の更新を行う。</p> <p>・財務システムの老朽化に対応するため、ハードウェア更新及びシステムの移行・カスタマイズを行う。</p>
<業務データにおける危機管理体制>	<p>・業務データ専用のバックアップシステムを国内遠隔地に設置し、大規模災害発生後の業務復旧が確実にできる危機管理体制を敷き、安全確保を図っている。</p> <p>・バックアップシステムは安定的に稼働しており、常時バックアップデータが遠隔地に保存されている。</p> <p>・バックアップデータは日次で3世代分保存されており、データの安全性、事業継続性は従前と比べて著しく向上している。</p> <p>・生田キャンパス内に免震対策を施したサーバ機器の設置スペースを用意し、研究室等に設置されているサーバ機器の受け入れを行っている。これにより、倒壊・転倒による事故等の抑制、ならびに学生・教員の安全性の確保を図っている。</p> <p>・学外からアクセス可能な各種サーバについて、教育・研究・事務の全てを対象にしたセキュリティチェックの実施を継続している。セキュリティチェックの結果は、各サーバの管理者に送付され、その対策に役立っている。</p>	<p>・仮想基盤の導入を進め、一括バックアップによる安全性、耐災害性を高めた。</p>	<p>・遠隔地へのデータ転送だけでなく、主要なシステムを広域災害の影響が及ばない離れた複数の場所に設置して、より高い事業継続性を確保する。</p>	<p>「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目</p>	<p>「改善を要する点」に対する発展計画</p> <p>当年度・次年度対応 F列にあれば記述</p> <p>中長期的対応 F列にあれば記述</p>	<p>・クラウド化も含めて高耐久性のあるシステムを構築すべく、システム基盤の標準化を進める。</p> <p>・標的型攻撃メールに対する危機意識の啓蒙の一環で、ダミー攻撃による訓練を計画する。</p>

2016年度 情報基盤本部 自己点検・評価報告書

基準 7 教育研究等環境

点検・評価項目 <small>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</small>	現状の説明 <small style="color: red;">C列の点検・評価項目について、必ず記述してください</small>	評価		発展計画		
		<small>効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述</small>	<small>改善を要する点・理由 D列の現状から記述</small>	<small>「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目</small>	<small>「改善を要する点」に対する発展計画</small>	
				<small>当年度・次年度対応 F列にあれば記述</small>	<small>中長期的対応 F列にあれば記述</small>	
(5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか						
a ②研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク利用上の倫理及び基準に関して、違反が生じた場合に情報基盤本部長が諮問する機関として、MIND審査委員会を設置している。 ・Microsoft E E S 及び, Adobe C L P ライセンスの管理を継続して行った。 		<ul style="list-style-type: none"> ・研究論文の剽窃をチェックするシステムがない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・iThenticateを導入し、論文の剽窃をチェックする。 ・iThenticateの運用について、関連部署と連携する。 	

2016年度 情報基盤本部 自己点検・評価報告書

基準 10 内部質保証

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		
		効果が上がっている点・理由 D列の現状から記述	改善を要する点・理由 D列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 E列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画	
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか						
a ◎自己点検・評価を定期的実施し、公表していること 【約400字】	<ul style="list-style-type: none"> ・内部質保証の方針と手続きの明確化として、情報基盤本部の適切性の検証を執行部会で行い、情報基盤会議に報告をして承認を得ている。また、執行部会の構成員による自己検証を行っている。 ・情報基盤会議は、情報担当理事のほか、情報基盤本部外からの学内関係者を含めて構成し、内部質保証に努めている。 ・執行部会において自己点検・評価を実施し、これを公開している。 					
(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか						
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結果を改善）を整備していること ● 文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】	<ul style="list-style-type: none"> ・基盤本部の活動については、教務部委員会・学部長会等、学内各関係機関へ適宜報告し、意見聴取を行う等透明性を示している。 					
(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか						
a ●PDCAサイクルを回すための、Check（点検・評価）及びAction（改善）の具体的内容・工夫 ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の自己点検・評価報告書の結果を踏まえ、翌年度の年度計画書に改善策を盛り込んだ。2015年度の自己点検・評価のうち、ネットワーク機器の更新と高機能化などの課題については、2017年度計画に反映し、大規模な改善を図ることとした。計画遂行に必要な予算は2017年度予定経費要求として提出した。 ・本学の情報システム及び情報システム部門の現状を調査し、システム部門としてあるべき姿、他大学との比較等により、本学の現状を確認し、問題点を解決していくことを目的として、2013年度に外部専門機関に調査を委託し18項目の提言が挙げられた。これらについて、取り組みが可能な項目から対応を行っている。 					